

## 平成 25 年度第 3 回 IODP 部会執行部会

日時:2013 年11月 18 日(月)15:00~17:30

場所:JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席予定者:

執行部:石渡 明(部会長・東北大学東北アジア研究センター)

池原 実(高知大学海洋コア総合研究センター) 木村純一(IFREE/JMSTEC)

斎藤実篤(IFREE/JMSTEC) 中西正男(千葉大学) 平野直人(東北大学東北アジア研究センター)

道林克禎(静岡大学)村山雅史(高知大学海洋コア総合研究センター)山田泰広(京都大学)

横山祐典(東京大学大気海洋研究所)

オブザーバー:

JR Facility Board:安間 了(筑波大学)

文部科学省:木村 穰 佐伯健太郎

CDEX:川村善久

事務局:倉本真一、梅津慶太(CDEX)

欠席予定者:池原 研(産業技術総合研究所) 坂口有人(山口大学) 鈴木庸平(東京大学)

中村恭之(IFREE/JMSTEC) 西 弘嗣(部会長補佐・東北大学総合学術博物館)

### 議事次第

#### 1. IODP の動向

・米国の状況について

・航海スケジュール.....資料 1-1, 1-2

・Advisory Panel 委員ローテーションについて.....資料 2

#### 2. J-DESC 将来検討委員会経過報告.....資料 3

#### 3. コアスクールの国際化について

#### 4. ニュースレター vol. 7 の内容と今後の発行スケジュール.....資料 4

#### 5. 広報活動について.....資料 5

・MRC(Microfossil Reference Center)微化石研究集会への後援について..資料 6

・IODP キャンペーン開催準備状況報告

・IODP10 年総括シンポジウム

#### 6. その他

・その他報告事項など

・次回執行部会開催日程確認

### 配布資料

資料 1-1 IODP 掘削航海スケジュール

資料 3 J-DESC 将来検討アンケート

資料 1-2 JR IBM 航海 Education Officer 募集情報

資料 4 J-DESC ニュースレター発行の記録

資料 2 Advisory Panel 委員ローテーション

資料 5 IODP キャンペーン開催概要

## 議事録(案)

### 1. IODP の動向

#### ・国際状況について

木村企画官より標記の件について報告がなされた。

- ・米国の状況は進んでいない。
- ・今週末に NSB に対して今後の 4 年間の運航について諮問を提案し、承認が得られれば、先に進む。
- ・ ECORD Facility Board メンバーは次回 2 名が改選がある。退任するメンバーの専門分野を考慮して複数名を応募できるように検討するのがよい。

#### ・航海スケジュール.....資料 1-1, 1-2

事務局より説明がなされた。

- ・「ちきゅう」は現在紀伊半島沖において NanTroSEIZE stage 3 を実施中。1/20 までのよてい。
- ・ JR は 9 月に日本海掘削が終了し、現在 Non-IODP。この後 1 月から南シナ海の CPP を実施後、IBM の 3 航海が 9 月まで続く。その後 2 ヶ月弱においてインド洋の 4 掘削航海を実施予定。
- ・ インド洋航海のうち、前半の 2 航海 (Indian Monsoon と Bengal Fan) は 1/6 まで乗船者募集中。後半の 2 航海 (Arabian Sea Monsoon CPP と Indonesian Throughflow) は 3/1～5/1 まで募集予定。

#### 木村企画官より補足

- ・ ECORD Council では、来年は Atlantic Massif を実施する予定との話があった。Chixulub Impact はその次。ただし、かかるお金が大きいとかなりの覚悟がいるとのこと。

#### 質疑応答

- ・ 来年度の「ちきゅう」の予定は？
- ・ 「ちきゅう」は 14 年度は南海ライザー掘削、15 年度は BOP の検査のためライザー掘削はできないため、南海の Observatory を設置する航海を実施する予定。予定通りに進めば 15 年度で南海掘削は終了となる。ただし、資源掘削の契約が取れるかとれないかで、ライザー掘削と Observatory 設置が前後することもある。
- ・ 南海掘削後のプロジェクトは決まっているか？
- ・ 現時点での候補は CRISP と IBM の 2 つ。2/18-19 に Chikyū IODP Board (CIB) が開催され、それまでに判断材料が揃えば次に実施するプロジェクトが決まるが、現時点では揃っていないため、先送りされる可能性がある。
- ・ 判断材料となるのは何か？
- ・ 判断材料となるのは資金計画と実行計画であり、これらのもととなる資料を準備するためにそれぞれのプロジェクトに Project Coordination Team (PCT) を設置することが前回の CIB で決定した。しかし、まだ正式に発足していない。

#### JR 号 IBM 掘削航海に乗船する Education Officer について

- ・ Ocean Leadership から Education Officer の募集が出ている。
- ・ Education Officer は JR 号に乗船し、掘削航海に関するアウトリーチ活動を行う役割があり、学校の先生や博物館等の職員、サイエンスライターなど、アウトリーチ活動を職務としている人が応募できる。
- ・ 東北大の久利さんが適任との意見があった。

#### ・Advisory Panel 委員ローテーションについて.....資料 2

事務局より説明がなされた

#### SEP 委員について

- ・ SEP は 7 名 (Science subgroup: 6 名, Site survey subgroup: 1 名)
- ・ Science subgroup メンバーは 1 年ごとに 2 名ずつローテーションするようになっている。来年 9 月に横山氏と高野氏が退任となるため、これまでに 2 名の後任を推薦する必要がある。
- ・ これまでの SSEP, SPC, PEP の委員は J-DESC で国内公募を行い、応募者の中から戦略的に選出し、推薦していた。

#### コメントなど

- ・過去に応募した方のうち、先行されなかった人に改めて声をかけたり、代理委員として出席してもらうことは有益である。
- ・これまでの乗船者からも候補になりそうな人に声をかけるのがよい。

**合意事項(131118-01) :** 退任する委員にとっての最後の会議前まで(2014年5月をめぐり)に次のメンバーを決める。

**実行項目(131118-02) :** 年内に公募の準備を開始する(実行者:事務局)。

**実行項目(131118-03) :** 今後の人選の参考とするため、過去のパネル委員募集に応募した人のリストを作成し、執行部に提示する(実行者:事務局)。

**EPSP 委員について**

- ・EPSP 委員は J-DESC から 1 名を派遣することになっている。委員の決定方法は、J-DESC から複数名を推薦し、アメリカ側でそのうち 1 名に任命するという方式。
- ・現在 2 名の候補者をリストアップしており、あと 1~2 名を上げたい。
- ・専門分野はなるべく分散したほうがよいので、2 名の候補者の専門分野(掘削工学、地球物理学)以外の方を上げるのが望ましい。

**実行項目(131118-04) :** EPSP 委員候補者の名前を挙げる(執行部委員)。

## 2. J-DESC 将来検討委員会経過報告 ..... 資料 3

村山委員より資料 3 に基づき標記の件について説明がなされた。

- ・11/2 に第 1 回会議を開催し、全会員にアンケートを実施することを決定した。
- ・現在アンケートを実施中。12/6 に〆切り、12 月後半に第 2 回会議を開催しアンケート結果を見る予定。
- ・検討すべき事例を将来検討委員会で整理し、各検討事項の方向性を議論し、執行部に上げる。
- ・執行部にあげられるものについて、各部会マターのものそれぞれの執行部で検討し(具体案を作成後幹事会に上げる)、J-DESC 全体に関わるものについては両部会の執行部が連携をとりながら検討し、理事会に上げる。最終的には会員総会において決定する。

## 3. コアスクールの国際化について

事務局より説明がなされた。

- ・今年度の総会においてコアスクールを国際化することが議決された。
- ・一方、前任の企画官の希望により、「ちきゅう」のパートナーシッププログラムにコアスクールを入れたいとの意向がある。

木村企画官より補足

- ・パートナーシップは、少ない金額で、サンプルリクエストや高知コアセンターのファシリティ使用に関する権利を付与し、キャパシティビルディングに寄与するカテゴリーが設けてあり、その先により多くのお金を払って「ちきゅう」に乗船するというロードマップを描くことを見据えている。そのキャパシティビルディングの中でコアセンターでの教育プログラムを含めたいと考えている。

コメントなど

- ・コアスクールは J-DESC 独自の活動であり、パートナーシッププログラムとは切り離すべき。
- ・コアスクールの予算に国外参加者の旅費を一部負担するための枠を設けることも検討すべき。

**合意事項(131118-05) :** J-DESC コアスクールはこれまで通り研究者コミュニティー(または PMO) 同士のつながりとして国際化する。一方、「ちきゅう」パートナーシッププログラムとしてコアスクールのような教育活動への協力が JAMSTEC より求められた際には協力する。

## 4. ニュースレター vol. 7 の内容と今後の発行スケジュール ..... 資料 4

事務局より説明がなされた。

- ・毎年度 1 号ペースで発行しているが、定期発行ではない。

- ・今年度分の Vol. 7 の内容を検討する必要がある。

#### コメントなど

- ・科学的内容を報告するよりも、アクティビティーを示すものとして発行するのが基本的スタンス。

#### Vol. 7 の内容

- ・航海の速報
- ・IODP の組織改編
- ・CHIKYU+10
- ・学生コアスクールの感想文
- ・学生乗船体験記
- ・アウトリーチイベントのまとめ
- ・その他ホットピック

**合意事項(131118-06) :** 総会や JpGU での配布を念頭に置いたタイミングで定期発行する(4月)。年度明けの総会前(4月)は予算が確定していないため、支払いは3月中に行うこととする。

**合意事項(131118-07) :** 陸上掘削部会と相談しながら Vol. 7 の内容を検討する。IODP 部会は広報担当の坂口氏を担当とする。

#### 5. 広報活動について

・IODP キャンペーン開催準備状況報告.....資料 5

事務局より報告がなされた。

- ・12/23, 24 に山口において IODP キャンペーンを実施予定。
- ・23 日は秋吉台国際芸術村において一般向け講演会, 24 日は山口大学において若手研究者・学生向け講演会を行う。
- ・一般向けの講演は九州大学の狩野氏, 学生向けは名古屋大学の須藤氏にそれぞれお願いした。
- ・両講演会とも講演の後に Skyp で会場と「ちきゅう」を結び, 船上の様子を伝えてもらう。船上では Co-chief の廣瀬氏が対応。

・MRC(Microfossil Reference Center)微化石研究集会への後援について.....資料 6

事務局より説明がなされた。

- ・JAMSTEC の木元氏より MRC 研究集会の後援依頼があった。
- ・MRC 研究集会は 2/28-3/3 に JAMSTEC 横浜研究所及び横須賀本部にて開催予定。
- ・会員提案型活動経費にも申請予定だが, 先だって後援の許可をもらいたいとのこと。
- ・MRC 研究集会は以前も会員提案型活動経費で採択した実績がある。

**合意事項(131118-08) :** MRC 微化石研究集会への講演を承認する。

・IODP10 年総括シンポジウム

事務局より説明がなされた。

- ・IODP が 10 年の節目を迎えたことを機に, JAMSTEC と J-DESC の共催シンポジウムを検討している。
- ・当初記者勉強会の延長として開催を検討していたもので, 記者勉強会は 8 月~10 月にかけて前 3 回を実施済み。その際には J-DESC からということで山田氏に協力していただいた。
- ・研究者向けと一般向け両方を開催するのがよいと事務局では考えている。
- ・これとは別に JFAST の成果報告講演会を宮城と岩手で一般向けにそれぞれ開催することを計画している。

#### コメントなど

- ・一般向けの総括講演会は JFAST 報告一般講演会の時期に合わせて東京で実施するのが望ましい。
- ・研究者向けには JpGU の地球掘削科学セッションを 2 部構成にして実施してはどうか。
- ・JpGU では基調講演として ISP の説明を誰かにお願いするのがよい。

合意事項(131118-09):IODP10年の総括シンポジウムをJ-DESCとJAMSTEC共催で進め、一般向けを3月末、研究者向けにはJpGUの地球掘削科学セッションに組み込み、そのための宣伝(投稿集め)を行う。  
実行項目(131118-10):JpGUの役員等に地球掘削科学セッションの一部をIODP10年の総括として開催する旨を連絡する(実行者:石渡部会長)。

・その他

石渡部会長より報告があった。

- ・東北大学において10/12, 13にIODPキャンペーンを実施, 斎藤氏にJFASTの講演をお願いした。講演会には100人以上が集まり好評であった。

6. その他

・その他報告事項など

木村企画官より報告があった

- ・深海地球ドリリング計画の中間評価報告書が刷り上がった。コミュニティーにも配布を検討している。

川村氏より報告があった。

- ・ブラジルで2月にIODPプロポーザル作成に関わるワークショップが開催される。日本からも積極的な参加が望まれる。

事務局より提案があった

- ・今回はJRFBメンバーとして安間氏にリエゾン出席をお願いし、継続的に出席してもらいたい。また同様にCIBからもリエゾン出席を求めたい。

合意事項(131118-11):JRFBの安間委員及びCIBの木村議長に毎回執行部会へのリエゾン出席を求める。

合意事項(131118-12):総会の日程を、JpGU開始前日の4/27(日)を第1候補とする。

・次回執行部会開催日程確認

来年1月後半～2月前半をめどに後日調整を行う。